

## 取扱いの趣旨

辺縁歯肉や歯間乳頭部に生じた歯肉膿瘍は、膿瘍の治療を実施することにより歯を保存することが可能であり、抜歯手術を行う必要性は乏しいことから、「歯肉膿瘍（G A）」で抜歯手術の算定は原則として認められない。

## 支払基金が公表している取扱いの全文

【手術】 《令和3年2月22日》

### 132 抜歯手術⑥

#### ○ 取扱い

原則として、「歯肉膿瘍（G A）」病名で、抜歯手術の算定を認めない。

#### ○ 取扱いを定めた理由

歯肉膿瘍は、辺縁歯肉や歯間乳頭部に生じた膿瘍であり、膿瘍の治療を実施することにより、炎症症状が軽減し、歯を保存することは可能であることから、抜歯手術を行う必要性は乏しいと考えられる。

## グラフの見方

検証不要(少数事例)

### 1 棒グラフ（該当レセプトの審査結果）

抜歯手術を算定している目視対象レセプト1万件当たり、条件（歯肉膿瘍（G A））に対して抜歯手術を算定）に該当するレセプト件数

### 2 折れ線グラフ

該当レセプトのうち、抜歯手術が査定・返戻となった割合

【棒グラフ凡例】 審査の結果

査定	返戻	: 取扱いどおり
請求どおり 職員等	請求どおり 審査委員	: 検証が必要

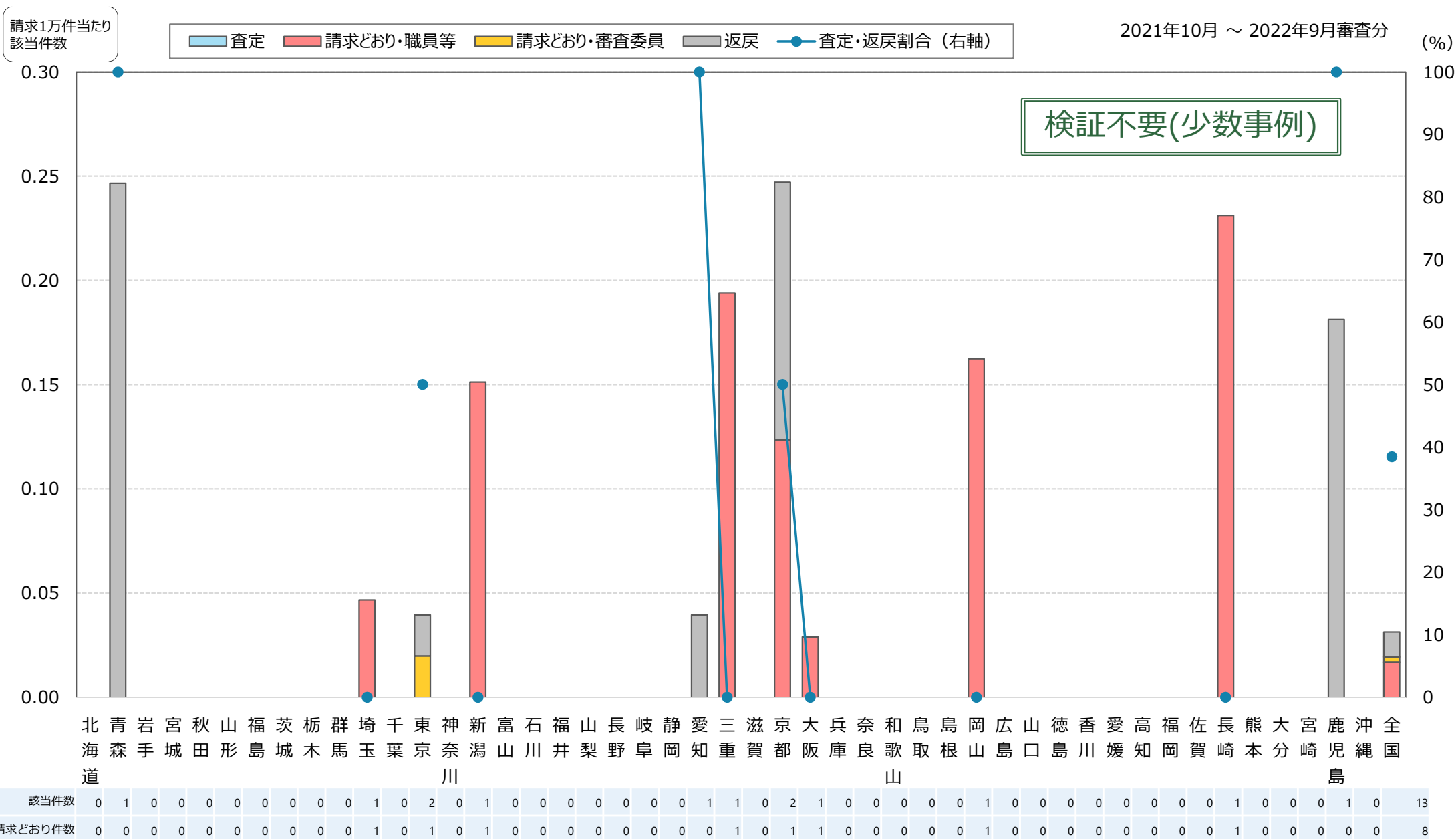
## 審査結果の概要

- 全国の査定・返戻割合 38.46%
- 検証を必要とする都道府県 0

検証観点	検証を要する都道府県	備考
査定・返戻割合が低い都道府県		査定・返戻割合の低い順
請求どおり・職員等		対象1万件当たり件数の多い順
請求どおり・審査委員		//
該当件数（全国）	歯肉膿瘍（G A）に対して抜歯手術を算定	13件
取扱いに基づく審査	査定・返戻の計	5件
検証を必要とする審査	請求どおり	8件

# 事例132 「歯肉膿瘍（G A）」に対する抜歯手術の取扱い

【認めない事例】



【該当件数】 歯肉膿瘍（G A）に対して抜歯手術を算定しているレセプト件数